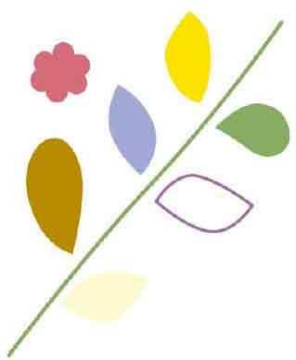


透視検査 消化管（胃、食道、大腸）



消化管造影検査

- 消化管の形態、粘膜の病変、他器官の病変による圧迫、通過障害などの診断のための検査です。
- 胃や食道の検査では造影剤（バリウム等）を飲んでいただきます。大腸検査の場合は肛門に管を留置しそこから注入します。体を回転させたり、台を傾けたりして様々な角度から写真を撮っていきます。

食道の造影画像だよ



こっちは胃の画像だよ



バリウムなどを使用した
消化管の検査だよ



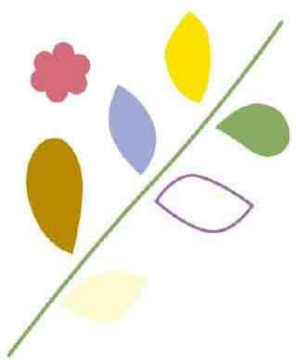
これは大腸の画像さ



大腸全体の画像です

L
L-DEC

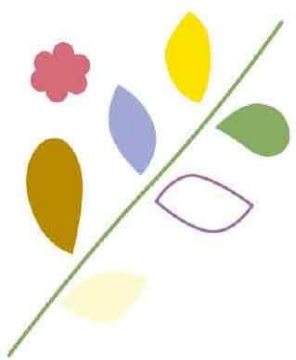




イレウス管

- 腸閉塞になると腸の運搬機能や吸収機能が低下しているののでガスが下から出て行かず、腹痛、嘔吐、腹部膨満などの症状が出現します。
- 腸内に溜まった内容物を吸引して、腸管内の減圧を行うのがイレウス管の目的です。





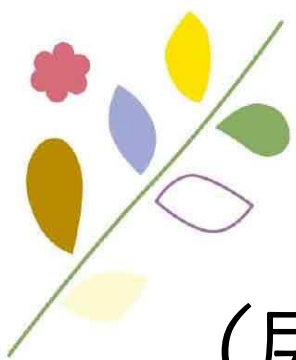
検査方法

- 鼻からイレウス管（吸引チューブ）を挿入し、胃を通して小腸まで進めたら固定します。
- 減圧した後にイレウス管から造影剤を注入し、腸をX線で撮影することで閉塞部位の診断も出来ます。
- 軽度の腸閉塞なら、上記のような保存的な治療で治癒することがあります。
- 場合によっては手術の適応となります。

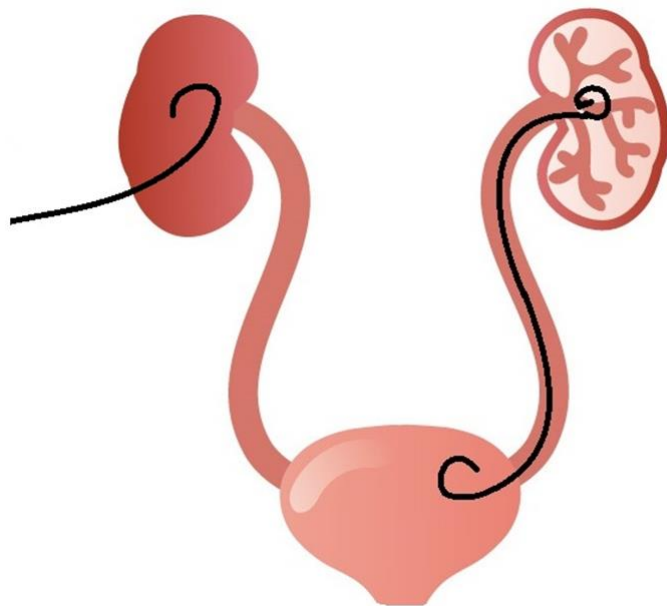


腸閉塞で拡張してしまった腸を治すのに
イレウス管と呼ばれるチューブを鼻から入れて
腸の内部を減圧していくよ



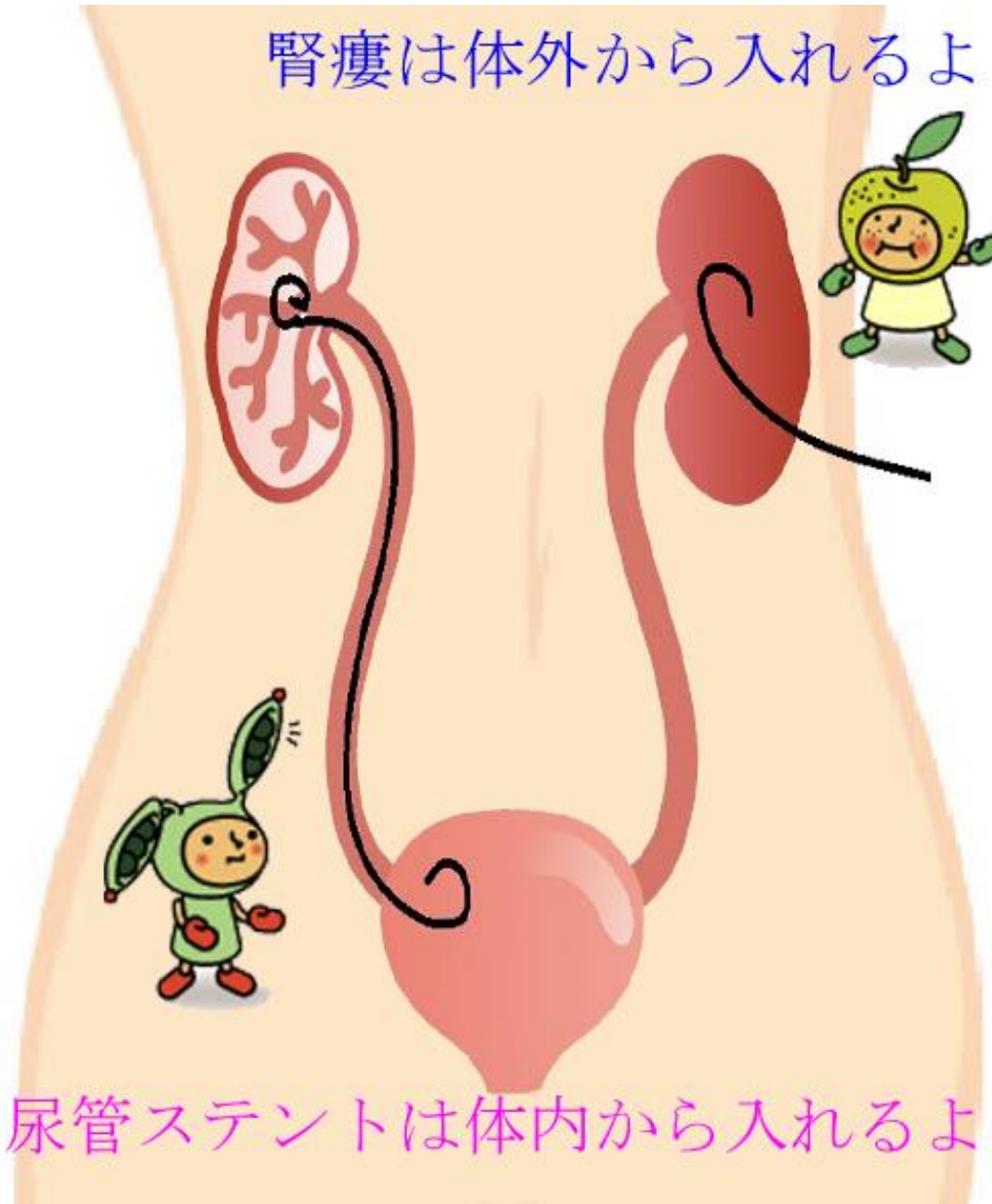


泌尿器系検査 (尿管ステント留置術・腎瘻増設術)

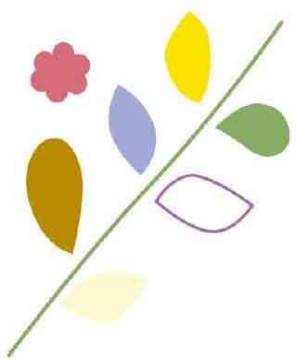


尿管ステントと腎瘻の比較

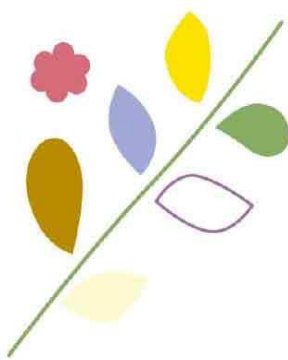
腎瘻は体外から入れるよ



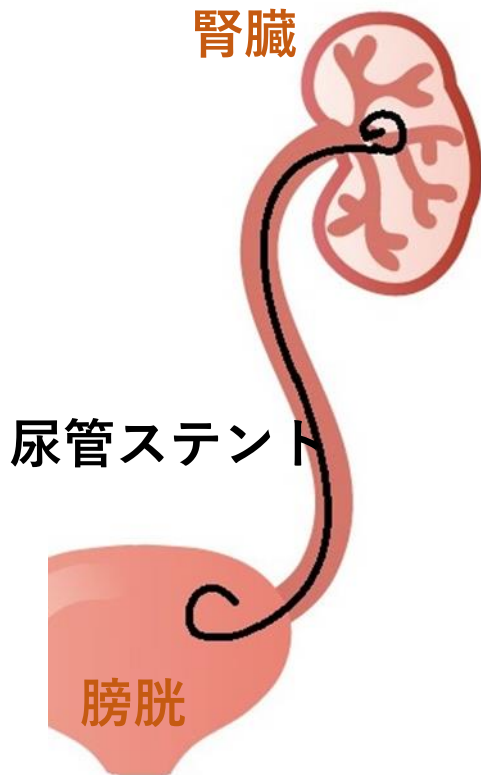
尿管ステントは体内から入れるよ



尿管ステント留置術

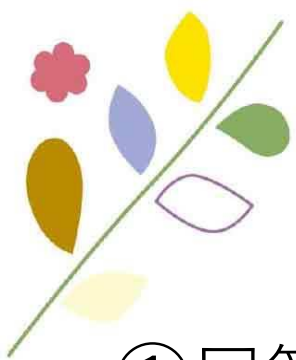


尿管ステントとは？



腎臓で作られた尿は、尿管を通り膀胱で溜められます。尿管が何らかの原因で圧迫されると、腎臓に尿が溜まり水腎症という状態になる事があります。

この時、ステントという直径約2mm、長さ約30cmの管を尿管に入れて、尿管がふさがらないようにします。



尿管がふさがれる原因

- ①尿管結石
- ②骨盤内腫瘍のリンパ節の転移で尿管が圧迫される
- ③手術の影響での尿管のむくみ
などがあります。

水腎症になると、脇腹の痛みや発熱、腎機能の低下や腎不全、最悪の場合には生命を落とすこともあります。



尿管ステントの副作用

個人差はありますが、尿管ステントを入れている間

①違和感

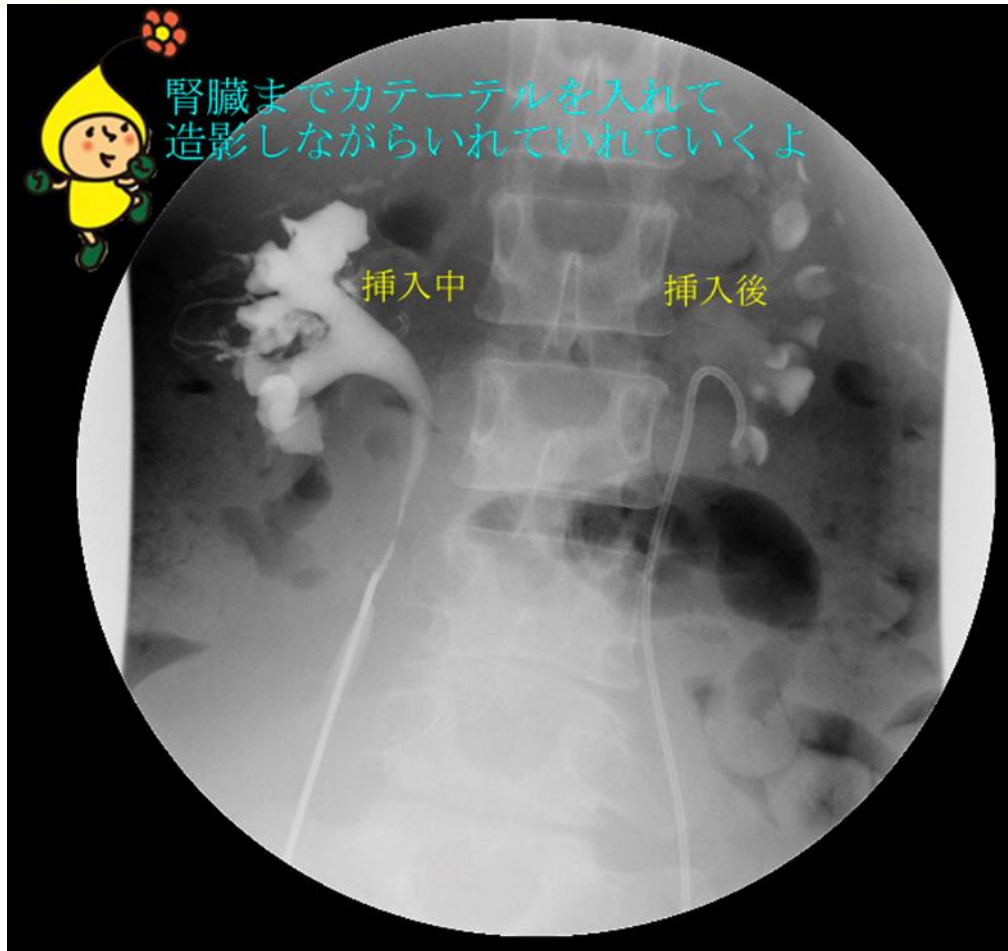
②血尿

③頻尿・残尿感

などを感じる場合があります。

※尿管ステントを入れる事で水腎症の改善が見込まれますが、尿管が狭くて尿管ステントが入らない場合や、尿管ステントを留置しても改善しない場合には腎瘻増設を行う場合があります。

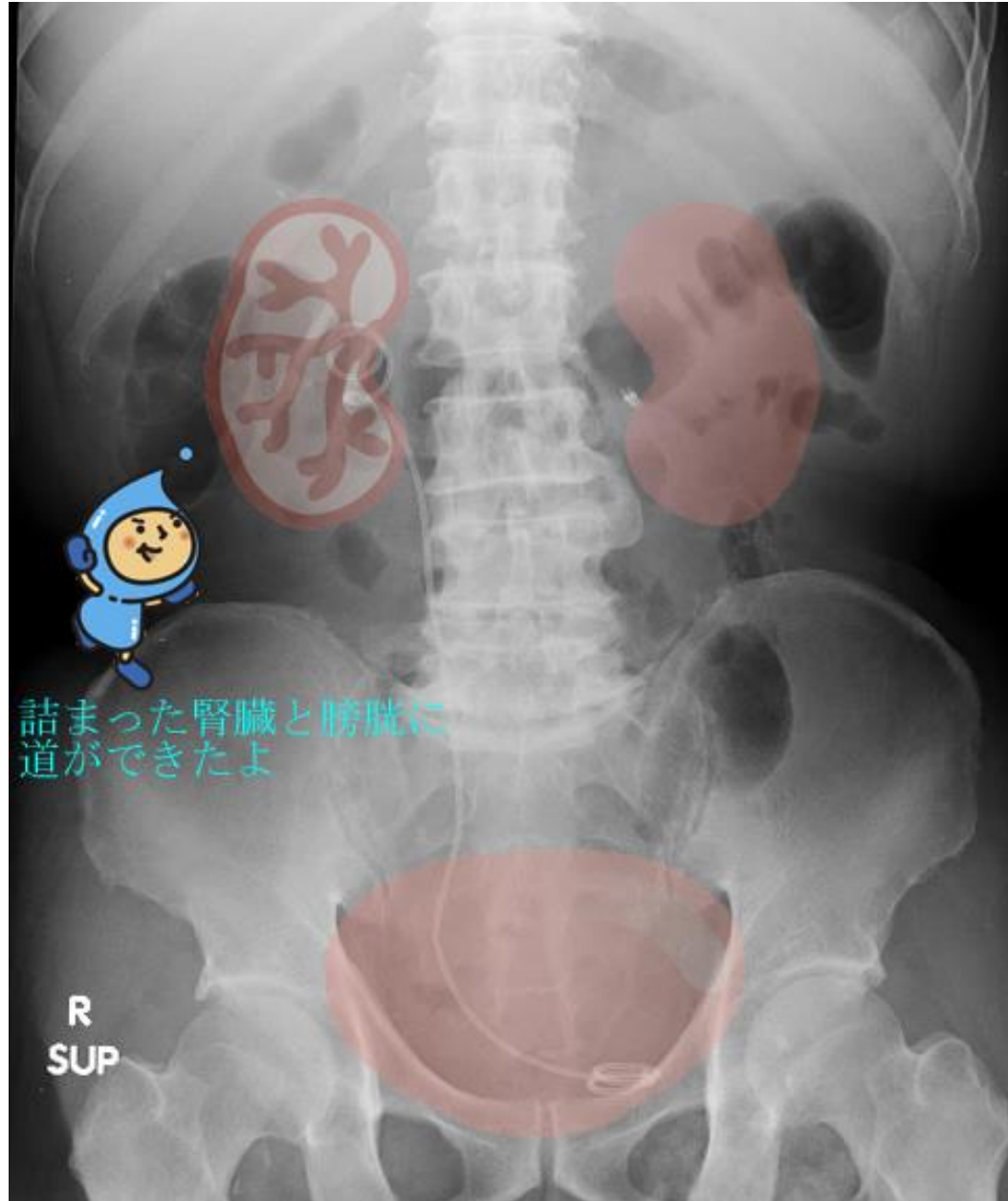
尿管ステント 治療方法

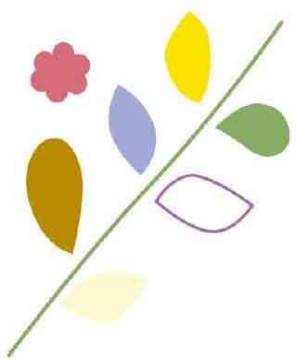


まず尿道から内視鏡を膀胱まで進めます。

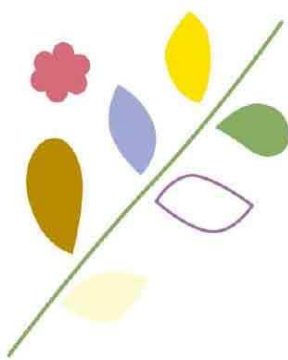
膀胱内にある尿管の出口からカテーテルを進め、造影しながら位置を確認し、尿管ステントを留置します。

尿管ステントが留置された画像





經皮的腎瘻術 (PNS)



腎瘻（じんろう）とは？

腎臓で作られた尿は、尿管を通り膀胱で溜められます。尿管が尿管結石や腫瘍、骨盤内の癌のリンパ節転移などで圧迫されると、腎臓に尿が溜まり水腎症という状態になる事があります。

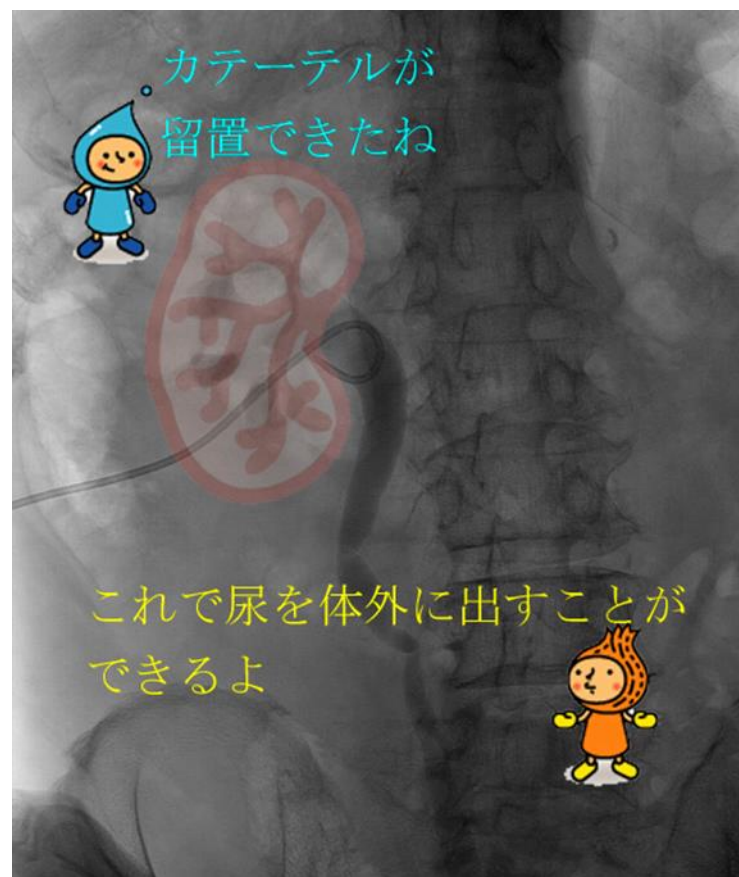
水腎症が酷くなると、生命を脅かす場合もあるため、尿を出すための管（腎瘻カテーテル）を背中より直接腎臓に入れます。これを腎瘻と言います。

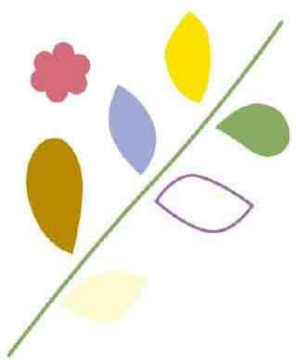


腎瘻 治療方法

うつ伏せで背中に消毒・局所麻酔を行います。

超音波で見ながら拡張した腎臓（腎盂・腎杯）に針を刺し、カテーテルを挿入します。





腎瘻 治療方法

腎盂・腎杯の拡張が不良で針の穿刺が困難な場合やうつ伏せになれなかったり動いてしまう方の場合には良好な位置にカテーテルを挿入できない場合があります。

また合併症としては、出血、臓器の損傷、尿路感染による発熱・背部痛などが生じる場合があります。